



説教要旨「力によらない救い主」

ルカによる福音書2章 1～20節

世の中、強い者が大手を振って歩き、弱い者が道をゆする、というのが当たり前であると思っている人は多いと思います。弱肉強食が世間の常識です。人間というのはどうも、強さとか力というものを手に入れると、自分が人様に合わせるよりは、人様の方が自分に合わせてほしいと思うようになるようです。しかし、世の中には実にさまざまな考え方や感じ方、信念、生き方をしている人たちがいます。その中で、全ての国家、民族、全ての個人を押さえつけて従わせることなどできるはずがありません。

だからこそイエス様は、小さく弱い存在としてこの地上に生まれてこられたのかも知れません。この世を救うために来られた救い主は、偉大な王さまでも強そうな戦士でもなく、また偉大な賢者のようでもなく、ただただ小さくて無力な一人の赤ん坊の姿で、この世にやってこられたのではないのでしょうか。

わたしたちは、毎年クリスマスをお祝いしていますけれども、いつも赤ん坊の姿で来られるイエス様をお迎えするのは、わたしたち自身の人生の出発点を毎年思い起こし、初心を思い起こすことのようにも思います。赤ちゃんは小さくて弱々しいけれど、その未来の可能性は計り知れません。そして、もしその未来が憎しみや争いで汚れてきたら、また赤ん坊から生まれなおせばいい。最初からやり直せばいいのです。世界中の人が、もう一度赤ん坊から人生をやり直すように、歴史をやり直すことができたなら、世の中はどれほどよくなるのでしょうか。

2022年も終わります。個人的にも社会的にも、この一年間のいろんな出来事を振り返るこの季節に、生まれたばかりの赤ん坊のイエス様を心に抱いて、わたしたち自身も新しい気持ちに生まれ変わらしましょう。そして、この1年でこじれてしまった関係性を「お互いやり直そうじゃないか」と勇気をもって呼びかけることで、来年こそは良好な関係性を築いていきたいと願います。

世の中がどんなに希望を見出すことが困難に思われる状況になったとしても、諦めることなく、未来への可能性を信じて、歩んで参りましょう。

(2022・12・25 説教者：稲垣真実)